

大切な友人の上顎に腫瘍ができて、その友人はヘビースモーカーで、とてもタバコが似合うステキな女性です。腫瘍が悪性か良性かの返事待ち中で、どちらにしても禁煙は免れないでしょう。で、ずっと以前に書いたエッセイを思い出したのもう一度。もう、タバコ止めて10年になるんだなあ。

「禁煙記念日」2012年11月号

この稿が皆さまのお手元に届くのは、11月1日ですよね。1が三つ。

同じ数字が三つ並ぶ月って、12ヶ月のうち、何ヶ月あると思います？ま、くだらない問いかけはどうでもよし。でも、ちょっと考えちゃったでしょう？

でもね。みなさん、拍手の用意をお願いします。

今日、11月1日は、僕がタバコを止めて、1周年の記念日なんです。拍手！。1が四つ並んだ、ってだけのことなのですが、僕にとつては記念日です。

26年間、1日約60本のタバコを吸い続けてきたのですから、禁煙1周年記念を喜びたいのですが、僕に末永く吸われるはずだったタバコにしてみれば、1周忌ということになるのでしょうか。

1年間、本当にタバコを吸わなかったら、ご褒美をあげる！と言ってくれたヒトも何人かいます。全て妙齢のご婦人です。どんなご褒美なんだろう？ウッフ。禁煙を宣言

した1年前、ある後輩は、キタゾノさんほどのヘビースモーカーが禁煙できるワケがない！と断言したので、じゃ、賭ける？5,000円、と持ちかけたなら、いやー50,000円賭けましようよ、と言うので、勝負に出ました。

そこに居合わせた別の後輩が、慌てて、そんな賭け止めとけバカ！キタゾノさんは、ホントにやっちゃうから！と止めに入ってくれました。

これは僕の主観なのですが、ヘビースモーカーほど、禁煙に成功したとき、喫煙者に寛容な気がします。実際に、僕は、食事中に隣でタバコを吸われても、どうぞどうぞ、という感じです。恐縮しながらのタバコっておいしくなれいもんね。

タバコを吸わなくなつて味覚が敏感になった、という、劇的な変化もあります。ただね。嗅覚が鋭くなった気がします。窓を開けた隣の部屋でタバコを吸っている人がいると姿は見えなくてもすぐ分かるとか。

で、いつも言うのですが、僕は、今でもタバコの香りが大好き。いいトラウマ、大好きだったおじいちゃんの匂いだから。

タバコを吸わなくなつて、ナニがイチバンいい？と、よく聞かれるのですが、答えはシンプルです。タバコを吸わなくて済む。登山家に、なぜ山に登るのか？という問いに、そこに山があるから、というカンジに似てますね(似てないか)。

でもね、ラクなんです。タバコを持ち歩かなくていい。タバコがあと何本しかない、ということに心配しなくていい。

い。この1本を吸い終わったら行動しようという時間のロスがない。

でも、やっぱり、今でもタバコを吸う夢を見ます。かなりシチュエーションがリアルなんです。夢のくせに、けむりのいい匂いまでするんですね、フシギですよ、人間の記憶とか神経とかね。

僕は、ヘビースモーカーでもありましたが、現役の大酒呑みでもあります。あまり威張れることじゃないのは重々承知していますが、先頃、お酒も1ヶ月ほど断ちました。禁煙に比べたら、禁酒なんて楽勝。

なんだか、禁煙成功を確信0したせいか、シアワセな気分、ほろ酔い気分、この稿を書いていまして、これを書いてるのは10月の初めです。11月1日までの数日間、タバコ、吸っちゃったりしてね。

ホンネを言えば、吸いたいもん。

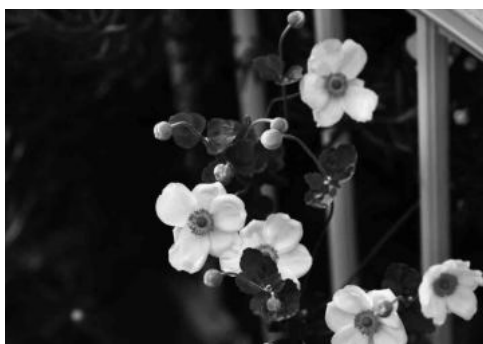


Photo:藤間 久子「Slowly」

岡山県生まれ。JPS(日本写真家協会)会員。カメラマンとして活動の傍ら、個展やフォト&エッセイなど自分の作品づくりに励んでいる。